

特別養護老人ホーム いこいの杜

1 基本方針

入居者が、楽しく生き生きと安心して過ごすことが出来る環境作りに努める。

よりよいサービスを提供するために、専門職としての倫理と誇りを持ち、技能の研鑽に努める。

入居者、家族、地域住民との連携を強め、地域に開かれた信頼される施設づくりに努める。

入居者一人ひとりの尊厳と個別の暮らしが大切にされ継続できるよう、家庭的な環境と暖かき専門的ケアの中で支援するとともに、地域との連携を大切にし、信頼され透明性の高い施設運営を目指す。

2 利用者の状況（令和4年3月31日現在）

（1）入退所の状況

定員	前年度末 利用者数	令和3年度中の入退所状況						利 用 延人員	年間平均 稼働率	年 度 末 利用者数
		入所	退所	退所理由別						
				施設 移管	契約解除 (入院等)	家庭 復帰	死亡			
80人	78人	22人	21人	0人	8人	0人	13人	27,189人	93.11%	79人
2年度 80人	79人	19人	20人	0人	9人	0人	11人	28,046人	96.05%	78人

（2）利用者の介護度別人員

性別	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男 性	0人	0人	3人	10人	8人	21人
女 性	0人	0人	5人	28人	25人	58人
計	0人	0人	8人	38人	33人	79人

（平均介護度 4.32）

3 事業の実施状況

（1）多職種協働によるチームケアの充実

ア 認知症ケア

（ア）認知証の方が「自分らしく生きる自信」の持てるよう、優しさを伝える技術コミュニケーションを基本とした職員のレベルアップを図る研修に取り組んだ。パート職員を含めた多くの職員（9名+所内研修9名）が認知症介護基礎研修 eラーニングを受講した。又、研修用に「いこいの杜で働くあなたへ」「皆で考えてみましょう」のタイトルでイラスト入り小冊子2冊を手作りした。気持ちに寄り添い、生活のしづらさを理解するために、入居者の方への向き合い方やケアの視点を変えてみるきっかけになることを期待し、新任者・着任者・中途採用者研修及びユニット研修に冊子を活用した。後期にサービス相互評価や PEAP を用いた環境整備（キャプション評価）を各ユニットで実施した。昨年に引き続き体験型研修は、感染予防のため中止した。

イ 口腔嚥下機能

(ア) 歯科医師助言の基、毎月の口腔ケアマネジメント計画を作成し、口腔ケアを実施するとともに、「食べる楽しみ」を継続できるよう、ダウンテンポの食支援に取り組んだ。

ウ 事故防止

(ア) 「何故？皆で考える」に焦点を当てたリスクの軽減、事故防止に取り組んだ。ユニット毎に、緊急時対応・緊急処置のポイントと根拠を考えながら実践的訓練を実施した。

エ 身体的拘束適正化・虐待防止

(ア) ユニット会議等において基本的な接遇やユマニチュードの手法に焦点を当てた認知症ケアや虐待の芽・不適切ケアに対する意識を高め合った。また、ケアに対する悩みを一人で抱え込まないように、相談しやすい職場環境作りに努めた。全職員を対象に身体的拘束適正化・虐待防止・接遇に関する研修を実施した。

(イ) 10月31日発生の介護事故が人権尊重義務違反の認定を受け、多職種協働での見直しと再発防止策を協議した。改めて入居者・家族・職員にとって、安全安心なケア提供のあり方について深く考えさせられた。

(ウ) 3ヶ月毎に実施予定の身体的拘束適正化検討委員会及び虐待防止検討委員会の2回目以降の会議は、新型コロナ感染対策のため、紙面により第三者委員に意見を伺った。

オ 医療的ケア

(ア) 医療と介護が連携して、安全な医療的ケアを実施した。喀痰吸引研修受講1名。採用職員2名実地研修修了。経管栄養・喀痰吸引学習のDVD視聴研修を実施した。

カ エンド・オブ・ライフケア

(ア) その人らしいQODを尊重したケアについて、意識の共有を図った。

9月より、人生に寄り添うケアとは？と精神的ケア等看取りに関するオンライン研修を実施した。今年度9名の方を看取った。(昨年度3名)

キ 自律支援

(ア) 福祉用具の安全かつ適切な使用を促進した。自立度を考慮した、生活リハビリによる機能維持向上や褥瘡・拘縮防止を図り、その人らしい活動を支援した。

(2) 経営改善・基盤の確立

ア 今年度の平均稼働率は93.11%と目標96%を下回った。入院者の増加と新型コロナ感染予防の事由で退所から入所までの空床期間が長くなったためと思われる。

イ 防災、減災を目的に各訓練を計画的に実施した。特に夜勤者には、火災避難について講義と実際の対処法を現場で確認する訓練を各ユニットで実施した。

2月、1月にエアコン室外機のガス漏れ故障が起き、応急的な修理で復旧したが、該当ユニットは数日間ストーブで暖をとった。

ウ 新型コロナ感染状況や感染防止に関する情報収集を図り、状況に沿って速やかに都度臨時感染対策委員会を開催し、感染予防対策マニュアルを検討し、感染予防の徹底に努めた。職員及び家族がPCR検査を要し、結果待ち自宅待機者が増えており、勤務シフトの変更に苦慮している。昨年度に引き続き、発生時想定への対応シミュレーション

をユニット毎に実施した。

6月～7月に希望者の新型コロナワクチン2回目接種を実施【入居者54名、職員(くつろぎ含む)82名】1月～3月初旬にワクチン接種3回目を実施。【入居者56名、職員82名】

全ユニット、セミパブリックスペースにカビが発生し、滅菌・防カビ薬剤を塗布した。

(3) 職員資質の向上と人材育成

ア コロナ禍により OFFJT や外部講師の招聘を自粛しているため、昨年度に引き続き(株)お茶の水ケアサービス学院のオンライン研修を導入し、幅広い内容の各種の研修を実施した。

運営上必要なリスク担当職員研修・ユニットリーダー研修・認知症介護実践者研修等オンライン研修受講を実施した。

イ 面談を通じた個別研修計画により、各自の目標を確認し、自己成長を図る取り組みを行った。

(4) 地域との連携・交流の促進

ア 新型コロナ感染防止対策により、ボランティアや外部の受け入れ及び各種学校との交流を制限している。資格取得に必要な実習等は、状況を見ながらの受け入れとし、看護大学の現場実習4名を受け入れた。湖陵高校のボランティアは入居者に関わらないよう地域交流室で、ティッシュ折りなどの介護に必要な物品作りの活動をしていただいた。

イ 絵手紙・書道のアート活動は、通信講座とし、講師に作品の写真を送付、指導助言を頂いた。余暇活動は職員が継続し、楽しみのある生活の提供に努めた。1月に中電ふれあいプラザで作品展を実施した。

ウ コロナ禍のため、中の茶屋地区の自治会長さんの協力を得て一人暮らしの高齢者に手作り和菓子などを提供し、心の交流を図った。

エ 介護労働安定センターの実務者研修の「施設見学の受け入れ」として、いこいの杜紹介動画説明に人材研修センターへ出向いた。

(5) 労働環境の整備

ア 福祉用具を効果的に用い、介護負担の軽減に努めた。入浴用の着衣チェアが老朽化により故障したため更新した。

イ 新型コロナ感染防止対策実施による福祉従事者としての自粛等、新たな行動様式を継続しており、負担感や先の見えない不安感閉鎖感が慢性化していると思われる。職員のメンタルや体調管理のサポートに留意した。

ウ 新任職員の習熟度やパート職員それぞれの働き方希望に配慮したシフトを組み、安心して働けるサポート体制を取った。

エ 勤怠システムを活用した労働時間の管理と業務の効率化、業務負担の軽減、時間外勤務の軽減を推進し、労働環境整備に努めた。

オ ストレスチェックを実施し、個々のストレスや集団のストレス傾向の把握を行った。結果を受け、改善策を検討することにあたり、職員へのアンケートを実施し課題の洗い出しと具体的な方策について検討した。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	受入期間	実人員	延人員
介護労働講習施設実習（出張講義）	6月	15人	15人
警察学校介護実習（出張講習）	7月	43人	43人
鳥取看護大学臨地実習	11月	3人	30人
計		61人	88人

(2) ボランティアの受入実績

書道・絵手紙・湖陵高校・四季の写真展示・油絵展示・リアル粘土細工展示・水彩画展示
(計：延べ 40人 (資料提供・アドバイス含))